

心理学研究法Ⅰ(実験計画法)

科目ナンバリング PSY-203
選択必修 2単位

飯島 雄大

1. 授業の概要(ねらい)

心理実験では、様々な条件を操作することにより心理現象を検証する。よってどのように条件を設定するのが重要になってくる。この講義では、データを適切に取得し、科学的に妥当な検証を行うための実験計画法について講義を行う。実験計画と解析手法は連動している。そのため前半は実験計画法とデータの取りかたについて学び、後半は統計ソフトウェア(R)を用いた実験データの解析方法について学ぶ。

2. 授業の到達目標

- ・実験計画法について理解する。
- ・実社会におけるこころの問題を測定・評価できる。
- ・心理学的問いを解明するために、具体的な研究方法を提起できる。
- ・研究倫理に配慮しながら、研究を計画し、データを収集できる。
- ・心理実験を実施し、データを収集・分析できる。

3. 成績評価の方法および基準

小レポート(50%)、小テスト(50%)で評価する。

4. 教科書・参考文献

参考文献

対馬栄輝・石田水里 医療系データのとり方・まとめ方—SPSSで学ぶ実験計画法と分散分析 東京図書
山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎 Rによるやさしい統計学 オーム社
橋本 貴充・荘島 宏二郎 実験心理学のための統計学 誠信書房

5. 準備学修の内容

- ・実験計画と統計解析は密接にかかわっているため、心理統計の基礎を復習して臨むこと。
- ・授業を復習し、自身のリサーチクエッションをどのように検討するか考える。
- ・統計ソフトのプログラミングについて復習し、解析結果を適切に報告できるようにすること。

6. その他履修上の注意事項

受講生の理解度や進捗によって、以下の授業内容や順番を変更することがある。

7. 授業内容

- 【第1回】 イントロダクション
- 【第2回】 実験による実証
- 【第3回】 データとその性質(オンライン)
- 【第4回】 研究計画を立てる
- 【第5回】 対象を抽出する
- 【第6回】 実験計画法
- 【第7回】 ここまでの振り返り
- 【第8回】 Rの基本的な使い方
- 【第9回】 実験デザインと分析①:対応のあるt検定
- 【第10回】 実験デザインと分析②:対応のないt検定
- 【第11回】 実験デザインと分析③:1元配置分散分析(実験者間1要因分散分析)
- 【第12回】 実験デザインと分析④:2元配置分散分析(実験者間2要因分散分析)
- 【第13回】 実験デザインと分析⑤:反復測定分散分析①(実験者内1要因分散分析)
- 【第14回】 実験デザインと分析⑦:分割プロットデザイン(混合計画2要因分散分析)
- 【第15回】 検定力分析